

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 板倉 宏予

作成日 2021年3月17日

【責任】

薬学部薬学科の1～3年生の必修の英語（英語Ⅰ、○医療英語Ⅱ、医療英語Ⅲ、○医療英語Ⅳ、薬学英语）、および2年生の選択科目の英語（英語コミュニケーション）等を担当している。（○をつけた科目では、科目責任者を務めている。）

【理念】

語学は暗記科目ではない。中学高校での経験から、大学入学当初の段階では「英語の勉強は試験前に和訳を暗記すること」であり、一夜漬けの暗記で覚えたことは試験後にはさっぱりと忘れてしまうものだと誤解している学生が多々見られるが、その場だけですぐ消えてしまう暗記は学習とは言えず、学習と言えないものに時間を費やすことは学生の時間の無駄使いだと考えている。

本学薬学部で、学生は1～3年の間に合計11単位の英語科目を必修で学ぶ。これだけの時間と労力をかけて学生が学ぶ英語は、学生がそれを身につけることによって生きていく上での選択肢を増やし、幸せに楽しく生きていける可能性を高めるような、生きていくための基礎力に寄与できるものであればよいと思う。薬学部の学生は薬剤師になるべく学んでいるので、近くは卒研での英語論文読解、将来的には薬剤師として働く現場で必要とされる英語を自分で学ぶための基礎力を、英語の授業を通じて身につけさせたい。また、基礎的な英語力を身につけるために必要な毎日の自己学習の習慣をあわせて身につけることで、英語の学習以外での生きていく上での成功体験につながれば良いと思う。

【方針・方法】

(1)「英語＝和訳の暗記」という、一部の学生に身につけている固定観念の呪縛を解き、初めて出会う英文を読み、聞くことができるようになるための本当の英語の学習を行う

方法：

定期試験、追・再試や、授業中に行うミニクイズなどの問題において「和訳の暗記」で解決できる問題は出題しない。また、授業では学生にあてて、述語動詞とその句型などの英文の文法構造の理解を問う質問に答えさせる。

(2)毎日自己学習を行う習慣を身につけさせるために、毎日の勉強の積み重ねが報われる科目設計を行う

方法1

医療英語Ⅱでは、毎回授業冒頭にミニクイズ(10問・5分)を行い、このミニクイズの得点の積み重ねが成績評価の50%を占めるという科目設計である。また、予習課題をmoodleにuploadし、予習を促している。毎回のミニクイズの問題の大部分をこの予習課題から出題することで、学生が予習課題を学習することが直接、自身の成績評価につながる設計としている。

方法2

医療英語Ⅲ、Ⅳでは定期試験を行わず、毎回の小テスト(医療英語Ⅲでは25問・20分、医療英語Ⅳでは30問・25分)の得点の積み重ねで成績評価を行う。(医療英語Ⅳでは、小テスト70%、TOEIC IP 30%)。小テストの問題の半分以上は学生が所有するテキストの指定範囲から出題されるため、毎回の授業に臨む学生の予習が直接、成績評価につながる科目設計としている。

方法 3

1年～2年前期の期間、基礎力向上を目的としたe-learningの自己学習を行わせる。このe-learningの課題を完遂することが、ミニクイズの得点を成績評価において有効化させる条件とし、学生がe-learningの課題を行う強い動機を与えている。

(3) 薬学生・将来の薬剤師として専門的な英文を読む力をつけるための授業内容を目指す

方法 1 :

1～2年次で行っているe-learningの業者と提携し、本学用の医学用語のオリジナルコンテンツを開発済みであり、医療英語Ⅱにおいて教材の一部として運用している。医療英語Ⅱは成績評価の50%を毎回授業冒頭のミニクイズでの得点が占めるが、e-learningの課題を完遂することを成績評価におけるミニクイズの得点の有効化の条件として、学生がe-learningの課題を行う強い動機を与えている。このe-learningで医療用語の基礎を学ぶことで、専門的な英語の読解力を高めることができる。

方法 2 :

医療英語Ⅲの毎回の小テストで、前年後期に学んだ医療用語の問題を出題し、復習を行わせて、知識の定着をはかる。

方法 3 :

2年の薬学英语において、論文の英語要旨を読む授業を行い、学生が英語論文を読めるようになるための基礎的な知識を身につけさせる。

方法 4 :

医療英語Ⅱで、テキストを補う形で英文プリントを読む区分を設けているが、学生にとって身近に感じられるトピックを選んでいる。たとえば、中国のトウ・ヨウヨウ博士が漢方を基盤にマラリア治療薬となる植物を発見した功績でノーベル医学賞をとった時には、彼女の業績を書いた英語記事を教材とした。

方法 5 :

医療英語Ⅲ、ⅣでTOEIC形式の問題を小テストで出題し、医療英語Ⅳで実際にTOEIC IPを受験することにより、1年間かけてTOEIC受験を目標に一般的、ビジネス系の英語力の向上も図る。外部試験であるTOEICの受験を目指すこと、TOEICのスコアが実際の成績評価につながることは学生の英語学習のモチベーション向上にも繋がっている。

【成果・評価】

授業アンケートの結果は平均3点台後半である。

20年度に新たな内容で開始した薬学英语については、今後の科目設計のためもあり、学生アンケートをとったが、その内容は、「面白い」「英文要旨を読めてよかった」と、概ね好評であった。また、医療英語Ⅳで実施しているTOEIC IPの平均スコアは、2019年度まで向上し続けていた。

【目標】

薬学生に、勉強の習慣を身につけさせつつ、卒業研究において、また卒業後に役立つ専門的な英語の基礎力をつけさせる科目設計・授業設計を続けていく。また、本学オリジナルの医療用語e-learningコンテンツの拡張・ブラッシュアップは中長期的な目標のひとつである。また、短期的な目標、というよりは毎年のものであり、“To do list”に近くなるが、21年度のミニクイズ、小テストの問題作り、医療英語Ⅳでのテキスト外英文プリントのトピック選び、予習課題の作成と授業後の解答などを行っていく。